

支援物資の届け、家財運搬、聞き取り活動が待たれています

全労連・各単産・地方組織からボランティアが3日間で81人支援



蛸島町で家財搬出の全労連全国災対連

全労連は10日〜12日までに、傘下の各県労連、自治労連、国公労連、全教、医労連、生協労連とともに、全農協労連なども参加し、3日間で81人が支援活動に参加しました。

10日は軽トラックで冷蔵庫、テレビ、机など、家財道具を運び出したり、ご近所の居住者に「お困りごとはありませんか」と、聞き取り活動を進めました。11日は珠洲市三崎町、輪島市上山町、能登町など、7カ所を各労組で分担。居住者の要望に応じて終日、建物の家財道具の運び出し、ゴミ掃除などに取り組みました。

被災地の生の声を行政に届け、東北、熊本の教訓を能登に生かそう

住居聡美さん(左から3人目)

日本共産党・衆議院岡山1区予定候補の住居さんは、須増県議、小田嶋・民青岡山県委員長などとともに珠洲市上戸町の仮設住宅を訪問して右のような感想を寄せています。



多くは避難所を転々としてやっと仮設にたどり着いた人達。資材も失い、預金の余裕もない農家の老夫婦に「自立せよ」とはいったい何なのか、この国は(住居聡美さん)。

9日、珠洲市の仮設を3カ所訪問しました。岡山からのお米や、青森からの山芋なども詰めた支援物資のセットをお届けしながら、ご要望を聞いて回りました。また、倉敷からたくさんの下着もいただいたので、訪問先の方に、玄関先まで取りに来てもらいました。

——「若い人に話を聞いてもらえるだけでうれしい」——と手を握って涙ぐむ女性もおられました。

<老夫婦から語られた不安と要望>

- 83歳と85歳の夫婦で家の再建などは考えられない。
- 今年の田植えはあきらめた。
- 仮設に入れて良かった。あとは自分たちでなんとかしないと決めている。これ以上、迷惑をかけられない。
- タクシーがまったく走ってないから病院に行けない。
- 公費解体の申請はできたが、いったい、いつから工事をするのか、終わるのかまったくわからない。

(須増伸子県議の facebook より)